

熊本市国際戦略の改定について

令和5年(2023年)11月 国際課

熊本市国際戦略（現行）の概要

名称	熊本市国際戦略	策定年月	平成30年3月	戦略期間	令和6年3月31日（令和5年度末）まで
戦略の位置付け	熊本市第7次総合計画の部門別戦略 第7節「国際社会に対応した取組の推進」 ※旧「熊本市国際化指針」・「熊本市東アジア戦略」を統合	策定趣旨	世界情勢の変化や本市を取り巻く状況の変化等を踏まえ、交流人口の増加や貿易、投資等の促進につなげる「海外展開」と、その土台となる多様性や創造性を育む「地域の国際化」を戦略的に進めるための基本指針		
目指す姿	世界に認められる「上質な生活都市」 ～国内外の誰もが住みやすい、訪れやすい、活動しやすいまち～				

【施策の体系図】

熊本市第7次総合計画

<計画推進における政策の体系図>

- 参画と協働の推進
- 開かれた市政運営と行政サービスの質の向上
- マネジメント機能の強化
- 市民に信頼される職員の育成
- 持続可能な市政運営の実現
- 市域を越えた広域的連携の強化
- 国際社会に対応した取組の推進**
- 持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた市政運営

熊本市国際戦略

<目指す姿>

世界に認められる『上質な生活都市』

<基本的取組>

戦略的な海外展開の推進

地域国際化の推進

<基本施策>

シティセールスと観光戦略の展開

海外とのビジネスの促進

まちの魅力向上に向けた国際連携の推進

多文化共生の推進

グローバルな人材の育成と集積・活用

<目的・期待効果>

交流人口の増加

- 海外からの観光客増加
- 海外取引の増加
- 多様性や創造性の向上
- 生活の質の向上
- 社会的文化的障壁の緩和
- イノベーションの誘発
- まちづくり、政策の質的向上
- 持続可能な仕組みの構築
- 復興の後押し など

定住人口の増加

<リーディング戦略>

- ① 復興をチャンスに変え、あと押しする国際コンベンションの推進
- ② 欧米豪からの誘客促進
- ③ 「世界が認める熊本城」づくり
- ④ 外国人目線での環境整備
- ⑤ 熊本の食のPRと販路開拓・拡大
- ⑥ 海外から評価される政策・まちづくりの推進

改定の趣旨及び方針

改定趣旨

- ① 新型コロナウイルス感染症の世界的流行をはじめ、**本市を取り巻く国際社会の情勢が大きく変化（※）**
- ② 第7次総合計画が期限を迎え、**新たな総合計画が策定**される
また、**本戦略の期限も令和5年度末まで**となっている

➡ 戦略のベースとなる背景のアップデートが必要

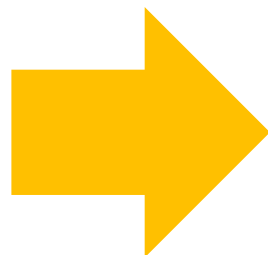
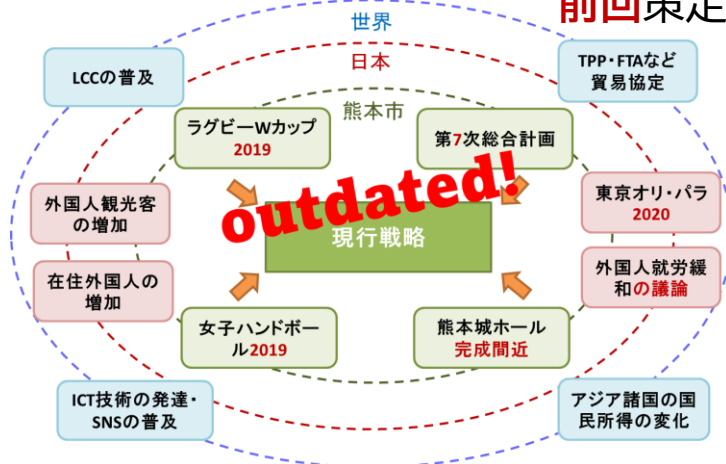
➡ 第8次総合計画の部門別戦略としてのアップデートが必要

改定方針

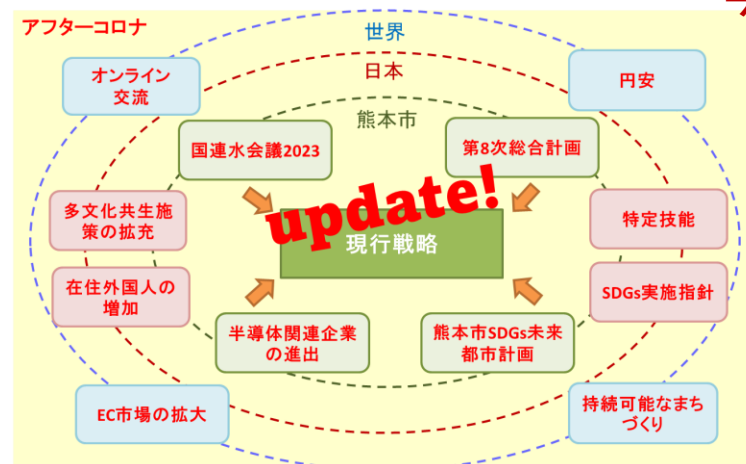
- ① **目指す姿**（世界に選ばれる「上質な生活都市」）と**基本方針の2本柱**（「戦略的な海外展開の推進」・「地域国際化の推進」）は**現行の戦略の方向性を継承**する。
- ② 基本方針の2本柱を支える**5つの基本施策**の磨き上げとそれらをけん引する**11のリーディングプロジェクト**の設定を行うとともに、**ターゲットとなる指標の明確化**を図る。
- ③ 上位計画である総合計画にあわせて、期間は「**8年間**」とし、中間見直しを「**4年目**」に行う。

<国際社会情勢の変化のイメージ>

前回策定の背景



今回策定の背景



第2期熊本市国際戦略の素案の全体構成について

第2期の全体構成案

1 戦略の基本的事項

(1) 策定の趣旨

(2) 策定の背景

更新

(3) 国際的取組により期待される効果

(4) 本市におけるこれまでの取組

(5) 統計データから見る本市の現状

2 戦略の基本方針

(1) 戦略の位置付け

(2) 計画の期間⇒8年（中間見直し4年目）

変更

(3) めざす国際都市の姿

更新

(4) 戦略を推進するための2つの基本方針

(5) ターゲット地域

3 戦略に基づく施策展開

(1) 戦略の体系図

(2) 基本施策

改定

(3) リーディングプロジェクト

改定

4 戦略の推進に向けて

(1) 2つの指標

新規

(2) 庁内推進体制

一部変更

(3) 外部連携体制

資料編

1 本市の姉妹都市情報・国際交流の歴史

2 熊本市国際交流会館の取組

3 アジア初・フェアトレードシティ

4 統計データ

新規

1 戦略の基本的事項 (2)策定の背景

【策定の背景 ～本市の取り巻く主な社会情勢の変化から】

世界情勢 の変化

- ロシアのウクライナ侵略等による法の支配による国際秩序の揺らぎ
- 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による世界経済の停滞(人流・物流の停滞)
- インフレ圧力、欧米各国の金融引締め
- 移動制限によるオンライン交流の普及
- デジタルトランスフォーメーションによる消費行動の変化・デジタル市場のグローバル化
- EC市場の拡大・多様化 ■ コロナ禍を経た旅行需要 の高まりと旅行者の志向や動向の多様化(FITの増加等)

日本を取り 巻く状況の変化・ 新たな国の 動向

- 国際競争力の低下(世界競争力ランキング2023世界第35位)※過去最低を更新
- 訪日外国人旅行消費額:早期5兆円達成・訪日外国人旅行者数:3200万人超え(～2025年)を目標
- 外国人の訪日目的や構成の多様化
- 国際的な人的交流を伴う取組の深化と掘り起しによるインバウンド拡大
- 農林水産物・食品の輸出促進(2025年までに2兆円、2030年までに5兆円)
- 入管法の改正、日本語教育の更なる充実
- 外国人受入環境の総合的な整備と多文化共生社会の推進

本市を取り 巻く状況の変化

- 熊本地震からの復興(復興のその先に向けた新たなまちづくり)
- 「熊本市第8次総合計画」の策定による新たなまちづくり
- 「熊本城ホール」の完成と新たなMICE誘致戦略
- 「第4回アジア・太平洋水サミット」の成功と「国連水会議2023」への参加による地下水都市としての国際的なプレゼンスの向上
- 在住外国人の増加(10年前から約2倍) ■ 台湾からの半導体関連企業の熊本進出 など

2 戦略の基本方針

期 間 「令和6年度(2024年度)～令和13年度(2031年度)[8年]」 ※総合計画の期間とあわせる

めざす国際都市の姿

— 世界に選ばれる「上質な生活都市」 —

世界に向けて 本市の魅力と持続可能なまちづくりの姿を発信し

地域の活力向上と都市の 持続的な成長につなげる海外展開 による交流

人口の拡大と、その土台となる多様性や創造性を育む地域の国際化の

推進を、両輪で戦略的に進めることにより、

国際都市として成長し 世界に選ばれる上質な生活都市となる！

※前回

— 世界に認められる「上質な生活都市」 —

世界に向けて くまもとの復興と新しいまちの姿を 示し

海外からの交流人口を増やし、本市への投資を呼び込むなど

地域の活力向上と都市の成長につなげる海外展開と

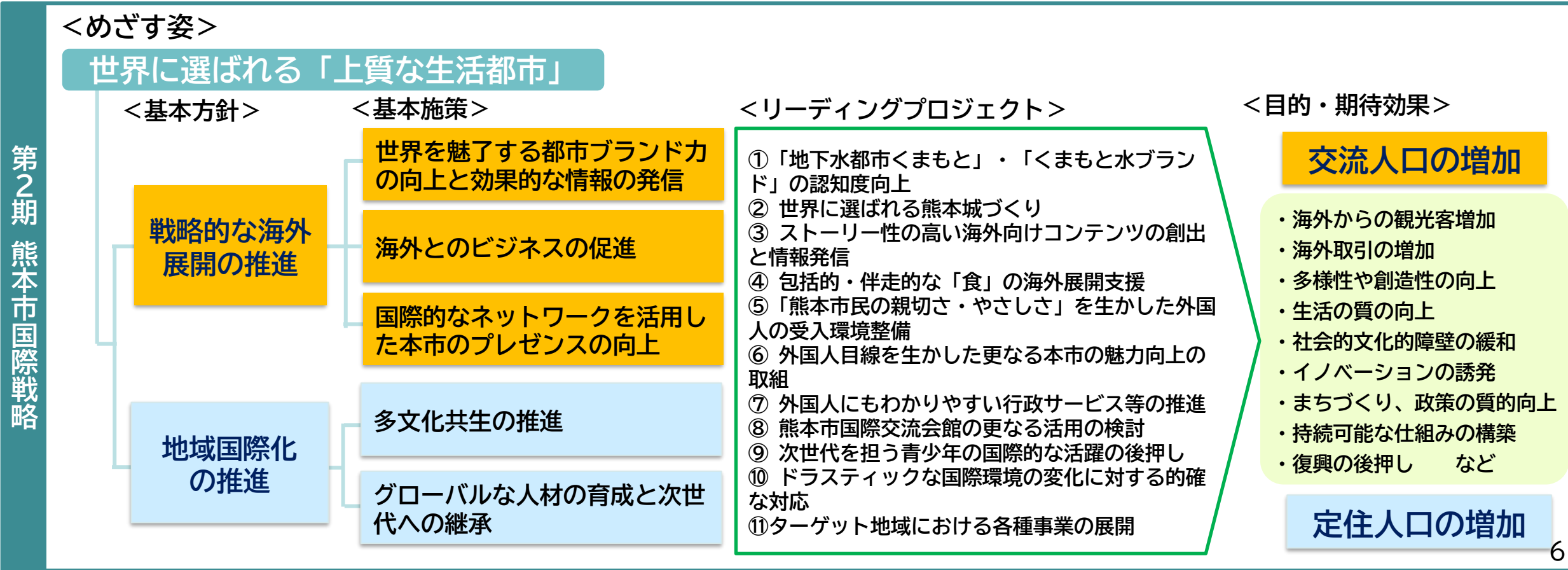
その土台となる多様性や創造性を育む地域の国際化を戦略的に進め

世界に認められる上質な生活都市となる！

ターゲット 地域	■ 東アジア	※重点都市: 友好都市・桂林市(1979年10月～)、友好協力都市・蔚山広域市(2010年4月～) 交流都市・蘇州高新区(2013年5月～)、友好交流都市・高雄市(2017年1月～)
	■ 東南アジア	
	■ 欧 州	※重点都市: 友好都市・ハイデルベルグ市(1992年5月～) 交流都市エクサンプロヴァンス市(2013年2月～)
	■ 米 国	※重点都市: 姉妹都市サンアントニオ市(1987年12月～) (旧植木町の)姉妹都市ローム市(1995年5月～)
	■ オセアニア	

3 戦略に基づく施策展開 (1)施策の体系図

名称	第2期 熊本市国際戦略	策定年月	令和6年3月	戦略期間	8年（令和6年度～令和13年度）
戦略の位置付け	熊本市第8次総合計画の部門別戦略		策定趣旨	世界情勢の変化や本市を取り巻く状況の変化等を踏まえ、交流人口の増加や貿易、投資等の促進につなげる「海外展開」と、その土台となる多様性や創造性を育む「地域の国際化」を戦略的に進めるための基本指針	
めざす姿	世界に選ばれる「上質な生活都市」 ～国内外の誰もが住みやすい、訪れやすい、活動しやすいまち～				



3 戦略に基づく施策展開 (2)基本施策

<戦略的な海外展開を推進する基本施策>

基本施策1：世界を魅了する都市ブランド力の向上と効果的な情報の発信

- ① ストーリー性をもったコンテンツの磨き上げと海外のニーズを捉えた戦略的な情報発信
- ② 本市の魅力を最大限にいかした国際的なにぎわいの創出
- ③ 交通移動の円滑化と外国人目線での受入環境整備

基本施策2：海外とのビジネスの促進

- ① 農水産物・加工品の更なる販路拡大に向けた包括的かつ伴走的な支援
- ② 半導体関連産業の熊本進出を契機としたビジネス交流の促進
- ③ 熊本発のスタートアップの育成と海外展開の支援
- ④ 販路開拓を目指す中小企業等への越境EC展開の支援

基本施策3：国際的なネットワークを活用した本市のプレゼンスの向上

- ① 友好姉妹都市等との国際交流の充実と発展
- ② 国際会議等への参加を通じた本市の魅力の発信と政策の質的向上
- ③ 世界の諸都市や国際機関とのネットワークの充実

3 戦略に基づく施策展開 (2)基本施策

<地域の国際化を推進する基本施策>

基本施策4：多文化共生社会の推進

- ① 外国人に向けた各種支援の充実
- ② 日本人市民に向けた多文化共生社会を推進するための取組の展開
- ③ 熊本市国際交流会館を拠点とした多文化共生ネットワークの構築
- ④ まちづくりセンターにおける外国人ニーズへの対応

基本施策5：グローバルな人材の育成と次世代への継承

- ① 地域を担うグローバルな人材の育成
- ② 海外からの留学生や研究者、企業などの誘致と外国人材の活用
- ③ 次世代を担う青少年の国際的な活躍の後押しとレガシーの継承

3 戦略に基づく施策展開 (3)リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクト	主な取組
①「地下水都市くまもと」・「くまもと水ブランド」の認知度向上	海外に向けて発信する機会を創出し、国際的な認知度の向上を図るとともに、水資源関連のブランディングを図る
② 世界に選ばれる熊本城づくり	復旧過程の公開をはじめ、体験型プログラムや教育旅行プログラムの創出、夜間イベントによる魅力発信、ユニークベニューとしての活用など
③ ストーリー性の高い海外向けコンテンツの創出と情報発信	「歴史・文化」、「清らかな地下水や豊かな緑」、「安全・安心で良質な農水産物」を特に海外向けのストーリー性の高いコンテンツとして磨き上げ、それらを海外に向けて発信
④ 包括的・伴走的な「食」の海外展開支援	熊本の生産者や食品関連事業者の海外への販路開拓について、関係機関と連携し、包括的・伴走的な支援を行う
⑤「熊本市民の親切さ・やさしさ」を生かした外国人の受入環境整備	在住外国人の方がいち早く地域のルールや生活習慣、文化に慣れ、地域社会の一員として活躍できるよう、熊本市国際交流会館とまちづくりセンターを中心に、地域と連携した外国人の受入環境整備
⑥ 外国人目線を生かした更なる本市の魅力向上の取組	在住外国人等と連携し、日本人市民と在住外国人双方の異文化理解の促進に努めるとともに、在住外国人が感じる本市の魅力など海外に向けて発信
⑦ 外国人にもわかりやすい行政サービス等の推進	QRコードを用いた行政手続の多言語による情報案内など、外国人にもわかりやすい行政サービス等を推進
⑧ 熊本市国際交流会館の更なる活用方針の検討	市民や関係団体の意見を聴きながら、熊本市国際交流会館の活用方針について検討
⑨ 次世代を担う青少年の国際的な活躍の後押し	青少年の国際的な活躍を各種広報媒体により発信し、また、プレゼンテーションや表彰の機会を創出することにより、青少年の国際的な活躍の後押し
⑩ ドラスティックな国際環境の変化に対する的確な対応	ロシアのウクライナ侵略やパレスチナ問題など国際情勢が不安定な中で、市民も避難民も安全で安心して暮らせるまちづくりができるよう、的確な受入体制の整備
⑪ ターゲット地域における各種事業の展開	欧州：ハイデルベルグ市、エクサンプロヴァンス市との交流促進、内密出産等の政策課題調査 米国：サンアントニオ市、ローム市との周年事業を通じた相互の強みを生かした交流についての協議、北米圏における本市の政策プロモーション等の実施 東アジア：桂林市、蘇州高新区、高雄市、蔚山広域市との周年事業を通じた相互の強みを生かした交流についての協議、台湾との交流拡大を踏まえたビジネス交流の拡大と受入環境整備 東南アジア：上海事務所を通じたビジネス・交流の機会の模索、現地旅行代理店と連携した誘致活動 など

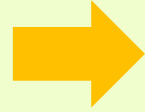
4 戦略に基づく施策展開

基本方針を代表する2つの指標

戦略的な海外展開の推進

外国人宿泊者数

47,222人



検討中

2022年度

2031年度

※海外からの観光客や国際会議などの参加者、ビジネス客などは、基本的に宿泊を伴うことが予想されるため、海外からの交流人口の拡大を示す指標として「本市の外国人宿泊者数」を設定

地域の国際化の推進

多文化共生が進んだと感じる市民の割合

調査中



検討中

2023年度

2031年度

総合計画アンケート結果等を踏まえ、1月中に決定予定

※市民全体として、外国人の方と接する機会や国際的なイベントへの参加、地域で活躍するグローバルな人材、多言語化による外国人受入の環境整備などが進展していると実感できたかどうか示す指標として「多文化共生社会が進んだと感じている市民の割合」を設定

庁内推進体制

- 「熊本市国際化施策庁内推進会議」による戦略の進捗管理と庁内連携の推進
 - ※海外に向けた事業を行う部局による部会の設置による局横断的な複層的かつ効果的なプロモーション
 - ※多文化共生の事業を行う部局による部会の設置による熊本市国際交流会館で行う事業や関係団体との連携の強化
- 「半導体関連産業集積推進本部」による受入環境整備

<掲載イメージ>



Heidelberg

ドイツ・ハイデルベルク市

【提携年月日】1992年5月19日
【市長】Eckart Würzner (エッカート ヴェルツナー)
【人口・面積】約16万人 約109 km²
【特徴】
○「古城と大学の街」ハイデルベルクは、13世紀に建てられたといわれる「古城」、ネッカー河沿いに広がる「旧市街」、対岸の「哲学の道」といった名所を擁し、年間約350万人もの人々が訪れる国際観光都市です。
○14世紀にドイツ最古の大学として創設されたハイデルベルク大学をはじめとしてバイオ研究や、医療関係の多くの研究機関が集まる研究都市でもあります。現在では最新のテクノロジーに支えられた、印刷機械や電機技術、金属、化学製品製造などの産業も盛んです。

【交流の内容】
○代表团による相互訪問(5年に一度)
○医療交流(医師や看護師の受入及び派遣)
○青少年交流(青少年の受入及び派遣)
○スポーツ交流(青少年によるスポーツ交流の受入及び派遣)
○経済交流
○民間交流組織を通した相互交流(訪問事業等)

【交流の形態】
・医療交流:熊本市市民病院、ハイデルベルク大学病院
・青少年交流:熊本市に居住する青少年、ハイデルベルク市に居住する青少年
・民間交流組織:熊本日独協会、熊本・ハイデルベルク友の会





友好姉妹都市等の特徴や交流状況などを紹介

フェアトレードとSDGs

フェアトレードは、すべてのSDGsの達成に繋がります!

2019年11月、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、世界の未来を共に築くための目標です。フェアトレードは、SDGsの達成に貢献しています。

SDGsの目標は、持続可能な開発のための目標です。フェアトレードは、SDGsの達成に貢献しています。

フェアトレードは、持続可能な開発のための目標です。フェアトレードは、SDGsの達成に貢献しています。

フェアトレードシティくまもと

フェアトレードシティくまもとは、フェアトレードの理念を推進し、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードシティくまもとは、フェアトレードの理念を推進し、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードシティくまもとは、フェアトレードの理念を推進し、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードって何?

フェアトレードとは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードとは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードとは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードの仕組み

フェアトレードの仕組みは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードの仕組みは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

フェアトレードの仕組みは、持続可能な開発のための目標を達成するための取り組みです。

アジア初のフェアトレードシティとしての取組状況を紹介



くまもとがいきいきとくまもとくまもと
熊本市外国人総合相談プラザ

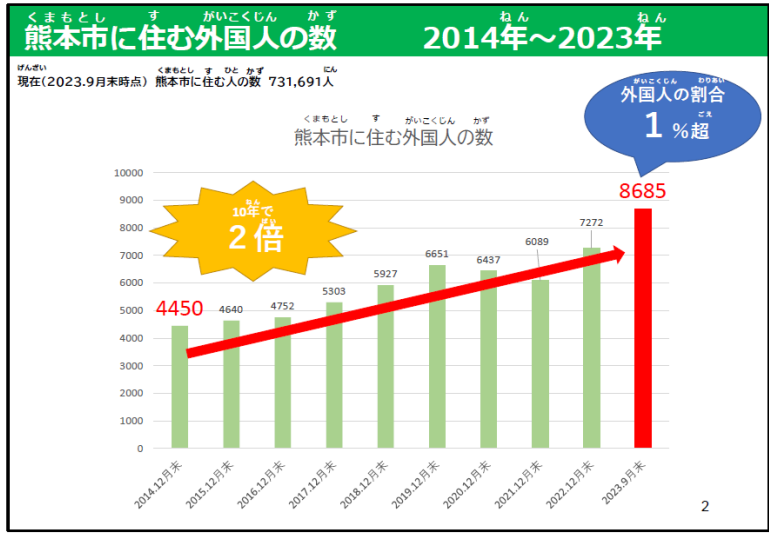


地域日本語教室の様子



日本語指導の様子

国際交流会館の取組を紹介



各種統計データ(在住外国人数、外国人アンケート結果、外国人観光客、国際会議開催件数等)を掲載